

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
【合言葉】みどりの子 明るく やさしく 根気よく
「自分をつくり自立する子（生きる力）」
- ・友達をつくり力を合わせる子（社会性）
 - ・豊かな心をつくる子（感受性・主体性）
 - ・丈夫な体をつくる子（意欲・気力・体力）
 - ・確かな考えをつくる子（課題解決力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「地域社会に根ざしたこれからの学校づくり～家庭・地域社会との相互連携による、生きる力をはぐくむ教育の推進～」

目標や課題の明確化・重点化・共有化を図り、一貫性のある教育活動を展開して、生きる力をはぐくむ教育を推進するとともに、適材適所の役割分担と課題解決への取り組み体制の工夫により、校内体制の活性化、強化を図り、教育目標の確実な具現化に努める。また、地域協議会や地域学校園を中心として家庭や地域社会との相互連携による教育をさらに推進して取組の効果を高めながら、児童の教育を通して地域社会にも貢献する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 知・徳・体のバランスを大切にし、確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体など、「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。
- (2) 組織体制の強化を図り、多様な教育的ニーズや事故等に対して、組織的な対応に努める。
- (3) グローバル社会や情報社会に対応するための資質・能力の基礎を培う教育の推進に努める。
- (4) 開かれた学校づくりを推進するとともに、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。
- (5) 外部人材の有効的な活用や勤務時間の管理方法等の改善を図ることにより、教教職員の働き方の改善に努める。
- (6) 小中一貫教育地域学校園の実施に伴う組織間の連携強化

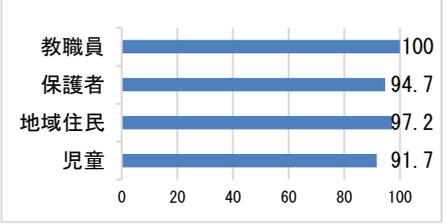
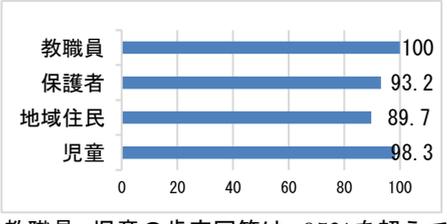
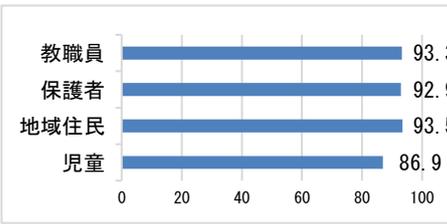
【陽南地域学校園教育ビジョン】
地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

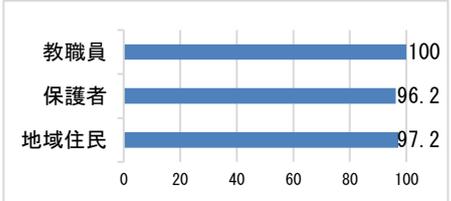
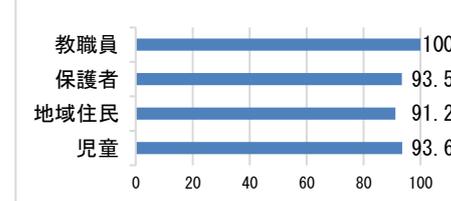
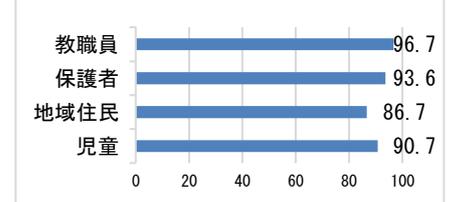
- 【学校運営】
- 「明るいあいさつ・楽しい学校」をスローガンに家庭・地域と連携し、人と関わる楽しさや学ぶ楽しさ等を実感できる学校づくりに教教職員一人一人が主体的に取り組む。
 - ・魅力ある学校づくり地域協議会との連携をより一層強化し、学校支援ボランティアの充実を図る。
 - ・出退勤の管理方法の工夫・改善と事務の効率化、簡素化など、確実な実施に努める。
- 【学習指導】
- 「学び合い、ともに育つ」～子供が主体的に学ぶ授業を目指して～
- ・習熟度別学習やコース別学習、グループ学習等を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。
 - 自分の考えをはっきりと示し、話し合いなどの集団の学びを通して思考を深める。
 - ・話し合い活動を充実させ、学び合う力を高めることに重点を置いて日常の学習活動の充実に努める。
- 【児童生徒指導】
- 集団生活における規範意識の育成と、思いやりの心をもって協力できる児童の育成に努める。
 - ・児童の特性やよさを認め、励まし、自己肯定感や有用感を高めるとともに、たくましさを育成する。
- 【健康（保健安全・食育）・体力】
- ・自分の心や体の様子に関心をもち、進んで体力向上に努め、健康・安全に生活しようとする児童を育成する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

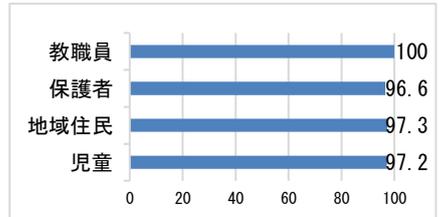
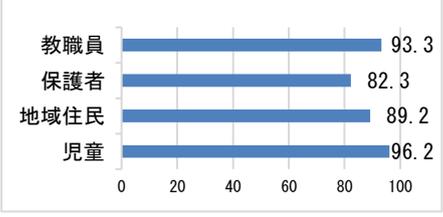
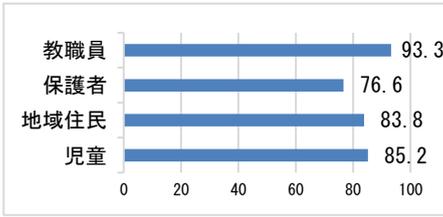
- ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	<p>A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童の学習意欲を高める授業を工夫する。(学習課題設定の工夫による一人一人に学びのある授業の実践・人材活用等の工夫)</p> <p>② 学級会活動や縦割り班活動、みどりタイム等で、話し合い活動を意図的に取り入れ、児童の主体的な活動を推進し、豊かな人間関係を構築する力を育てる。</p>	B	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・地域住民の肯定回答は、95%を超えている。児童の肯定回答も指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 継続して児童の学習意欲を高める学習課題を設定し、児童の主体的な活動を取り入れた学級活動や縦割り班活動、みどりタイムの充実を図り、豊かな人間関係を構築していく。</p>
	<p>A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 個々の児童の学習指導上の課題を常に意識し、ねらいを明確にして学習の見通しを持たせた授業の展開に努める。「みどりの学びスタートパック」の活用に努め、学習規律の確立を図る。</p> <p>② 自ら進んで望ましい行動がとれるような生活面の指導を、全教職員が児童指導対策委員会などを通して共通理解をした上で、組織的に行う。</p>	B	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・児童の肯定回答は、95%を超えている。保護者の肯定回答も指標を13ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学習指導については、今後も「みどりの学びスタートパック」を活用し、学習規律の確立を図っていく。 次年度も継続して、全教職員が児童指導対策委員会などを通して共通理解をした上で、組織的に行う。</p>
	<p>A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 基本的な生活習慣を身に付けようとする意識を高めるために、「みどりの子のやくそく」を各学級に掲示し、重点目標について繰り返し指導する。</p> <p>② 生活当番（教職員）が児童の実態から問題点を見出し、改善に向けた生活目標を設定して全教職員で重点的に指導に当たる。</p>	B	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・保護者・地域住民の肯定回答は10ポイント以上指標を上回っている。児童は、指標は上回っているものの86.9%だった。</p> <p>【次年度の方針】 生活当番の方法を見直し、季節や行事に合わせて目標を作成しながら、児童の実態にあわせて朝の会等で児童に伝えていく。</p>

<p>A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業研究に積極的に取り組み、児童一人一人が意欲を持って取り組める分かる授業の工夫に心がけ、学力向上に努める。</p> <p>② スキルタイム(朝の学習)を充実させるとともに、家庭学習について「家庭学習のヒント集」(陽南地域学校園)を活用し、具体的な指導・支援を行うことにより、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>③ T・Tによる学習や少人数による習熟度別学習を充実させるとともに、特別支援教育の考え方を生かした指導を行うことにより、個に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>88.8</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>90.9</td></tr> <tr><td>児童</td><td>95.8</td></tr> </table> <p>教職員・児童の肯定回答は、95%を超えている。保護者・地域住民の肯定回答も指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 児童一人一人が意欲をもって取り組み、分かる授業の実践のために、今後も、授業研究に積極的に取り組んでいく。 「家庭学習のヒント集」(陽南地域学校園)を基に、各学年やブロックの実情に応じて、創意工夫をし、活用していく。</p>	教職員	100	保護者	88.8	地域住民	90.9	児童	95.8
教職員	100									
保護者	88.8									
地域住民	90.9									
児童	95.8									
<p>A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学年・学級懇談会や学校だより、HP 等で積極的に学校の方針を説明・公表するとともに、保護者や地域といじめに関する情報交換に努める。</p> <p>② 「いじめは絶対に許さない」、「いじめには大人が介入する」を全教職員で認識し、児童の主體的な取組(いじめ根絶集会)も促しながら、未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>78.6</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>88</td></tr> <tr><td>児童</td><td>97</td></tr> </table> <p>教職員・地域住民・児童の肯定回答は、指標を大きく超えている。保護者肯定回答は、指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 いじめ0集会での発表や標語づくりを通して啓発を行い、いじめの未然防止を図る。 おはなしタイムで児童からの話をしっかりと聞き、いじめの早期発見・早期解決に取り組むなど、「いじめの防止基本方針」に基づき、全校体制で取り組むようにする。 学校便りや学年だよりを通して、いじめについての取り組みを発信していく。</p>	教職員	100	保護者	78.6	地域住民	88	児童	97
教職員	100									
保護者	78.6									
地域住民	88									
児童	97									
<p>A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 全ての学校行事について、全体アンケートや学校点検の結果をもとに、担当者を中心に改善策を策定する。</p> <p>② 週案の記録と反省、各行事実施後の評価などにより、具体的な改善策を明確にして次回に生かす。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>96.7</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>96.6</td></tr> <tr><td>児童</td><td>93</td></tr> </table> <p>教職員・保護者・地域住民・児童の肯定回答はどれも 90%を超え指標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 児童と向き合う時間の確保のため、今年度の方向性を維持し、今年度の反省を生かして活動を実施する。実施後は改善策を速やかに検討し、次年度の計画に生かす。</p>	教職員	100	保護者	96.7	地域住民	96.6	児童	93
教職員	100									
保護者	96.7									
地域住民	96.6									
児童	93									

<p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】 教職員・地域住民・保護者アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒教職員・地域住民・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校行事や学年行事等での児童の様子を提供するため、各種たよりの発行、HPの更新に努める。</p> <p>② 6月と12月に学校公開日を設け、自治会への回覧文書やHP等で広く広報するなどして、より多くの人々に学校の教育活動を理解してもらうよう努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>97.2</td></tr> </table> <p>B 教職員・保護者・地域住民の肯定回答は全て 95%以上で指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の方向性を維持するとともに、HPでの適時性のある情報発信などの充実に努め、保護者や地域の要望に応える。</p>	教職員	100	保護者	96.2	地域住民	97.2		
教職員	100									
保護者	96.2									
地域住民	97.2									
<p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実に図っている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域資源や人材などの教育力を生かした体験型学習を充実するため、多くの教科や活動で学習支援ボランティアの協力を得る。</p> <p>② 緑が丘小地域協議会に学校の情報を提供するとともに、地域協議会の活性化と活動の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>93.5</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>91.2</td></tr> <tr><td>児童</td><td>93.6</td></tr> </table> <p>B 教職員・保護者・地域住民・児童の肯定回答は全て 90%以上で指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 地域協議会を中心としてボランティアを組織化し学校と連携協力を図ることで、より一層地域の教育力を生かした活動が実施できるようにする。あいさつ運動は、まちづくり協議会と連携し、地域協議会の活動として継続実施していく。</p>	教職員	100	保護者	93.5	地域住民	91.2	児童	93.6
教職員	100									
保護者	93.5									
地域住民	91.2									
児童	93.6									
<p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され学習しやすい環境である」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童の学年の段階にあわせた清掃指導の充実と、学校支援ボランティアやPTAの奉仕活動などを活用した校内環境整備に努める。</p> <p>② 計画的な環境整備を継続し、クラブ活動や委員会活動を知らせるコーナーをさらに発展させ、児童の主体的な活動を支援する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>96.7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>93.6</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>86.7</td></tr> <tr><td>児童</td><td>90.7</td></tr> </table> <p>B 教職員・保護者・児童の肯定回答は 90%以上で指標を大きく上回っている</p> <p>【次年度の方針】 清掃指導の充実に努め、児童と共に清掃を行う教職員の姿を通して児童の自主的な活動へと繋げる。学校支援ボランティアをより一層活用し、地域住民と共に校内環境を整備することで学習しやすい環境を目指していく。</p>	教職員	96.7	保護者	93.6	地域住民	86.7	児童	90.7
教職員	96.7									
保護者	93.6									
地域住民	86.7									
児童	90.7									

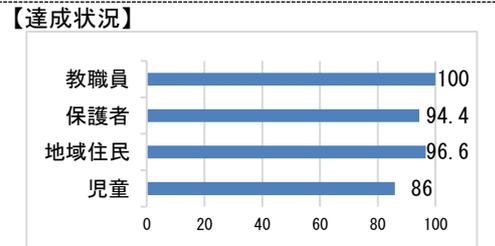
<p>A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域学校園として、各教科で身に付けさせたい力を年間指導計画に位置付け、教教職員が9年間で児童を育てる意識がもてるようにする。</p> <p>② 小中一貫教育研修会の各部の話し合いの内容や乗入れ授業の内容を全体に周知し、共通理解を図る。</p> <p>③ 給食だよりや図書館だより等の地域学校園共有発行を推進する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>86.7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>82.9</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>91.7</td></tr> <tr><td>児童</td><td>79.1</td></tr> </table> <p>B 教職員・保護者・地域住民の肯定回答は指標を上回っているが、児童の肯定回答は指標をわずかに下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、学校だよりや学年だより等で、保護者へ実践状況等をお知らせする。また、HPにあいさつ運動や乗入授業などの実践の様子を広く啓発する。</p>	教職員	86.7	保護者	82.9	地域住民	91.7	児童	79.1
教職員	86.7									
保護者	82.9									
地域住民	91.7									
児童	79.1									
<p>A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」 ⇒教教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 専門スタッフの役割を明確化するとともに、学校業務の見直しと新たな校務分掌組織づくりを図る。</p> <p>② 多様な専門性を有する学校スタッフと連携した教育活動の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>56.7</td></tr> </table> <p>B 教職員の肯定回答は、指標を大きく下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学校業務や校務分掌の見直し、内容の検討を行い専門スタッフに任せるところは任せするなどして、教職員の多忙感の解消を図っていく。また、年間を通して計画的に専門性を有する学校スタッフの活用を図り、教育活動の充実を図る。</p>	教職員	56.7						
教職員	56.7									
<p>A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」 ⇒教教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施に努める。</p> <p>② 業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施を図る。</p> <p>③ 各スタッフによる関係教職員への積極的な情報提供の推進に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>90</td></tr> </table> <p>B 教職員の肯定回答は、指標を10ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 就学指導委員会などの各種委員会に専門性を有するスタッフも組織の一員として位置づけ、積極的な情報提供や意見を反映できるようにしていく。</p>	教職員	90						
教職員	90									

	<p>B 1 危機管理対策等を充実させる。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケートの「学校は、避難訓練、引き渡し訓練や登下校の安全対策を計画的に行い、危機管理対策を充実させている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 登下校の児童の安全については、地域の実情に応じてボランティアの協力を依頼する。</p> <p>② 災害時の児童引き渡しや竜巻の時の行動の仕方を理解させ、訓練で実践化を図る。</p> <p>③ 不審者侵入対策の避難訓練の工夫をする。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・保護者・地域住民・の肯定児童の肯定回答は、すべて 95%を超えて指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 竜巻や不審者侵入、地震・火災などの避難訓練を通して、自分の命を守る心と態度を育てていく。 登下校の安全については、毎週水曜日の一斉下校で指導をしていく。また、1列で1班ずつ帰すことで安全意識を高める。さらに、ボランティアや保護者の協力を得て安全確保に努めていく。</p>
<p>教育活動の状況</p>	<p>A 13 児童は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 代表委員会の計画であいさつ強化週間を実施したり、あいさつ標語を掲示したりするなど、児童の主体的な活動によるあいさつの励行に努める。</p> <p>② 陽南中学校地域学校園や、緑が丘小学校魅力ある学校づくり地域協議会との連携を図り、保護者、地域と連携協力したあいさつ運動を実施する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・児童の肯定回答は 90%を超え指標を大きく上回っている。しかし、保護者・地域住民は指標を上回っているものの、90%に届かなかった。</p> <p>【次年度の方針】 保護者や地域住民の肯定割合が昨年度より上がり、あいさつに対する意識が高まっている。代表委員会が主体となったあいさつ運動を継続し、あいさつのさらなる習慣化を図る。また、「緑が丘あいさつ運動」も継続し、地域をあげてあいさつの響く環境を作る。</p>
	<p>A 14 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた言葉遣いをしている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 改まった場での「です・ます」、友達へ「さん」付けで呼び合う指導を、徹底する。</p> <p>② 道徳の時間において、正しい言葉遣いや思いやりの心を育む道徳資料を活用し、実践力を身に付けさせる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・地域住民・児童の肯定回答は、指標を上回っているが、保護者の肯定回答は、指標を約3ポイント下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 児童は言葉遣いに気を付けて生活しようとしており、成果が出始めている。今後も学校生活全般で、「です・ます」「さん」付けを徹底し、教職員自らが見本になるように努力する。</p>

健康・体力

B2 児童は、読書の習慣が身につけている。
【数値目標】
 児童・保護者・教職員のアンケートの「児童は読書の習慣が身につく、読書が好きである。」
 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上

- ① 全校読書や読書週間、ボランティア等による読み聞かせや家庭での読書の奨励を全校体制で実施する。
- ② 学年に応じた必読図書を紹介し、家庭での読書を奨励する。

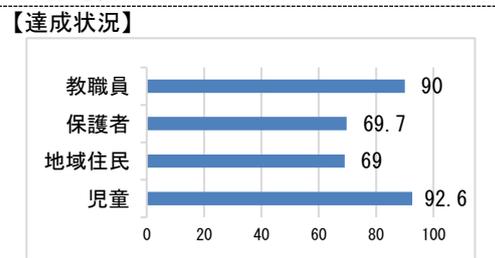


教職員・保護者・地域住民の肯定回答は、90%を超え、指標を大きく上回っている。児童の肯定回答も指標を上回っているものの、6ポイント止まりであった。

【次年度の方針】
 朝の読書の時間、児童が15分間、席について読書できる習慣をつけていく。
 全員が読破できるように、必読図書を3冊以上購入したり、各学年のフロアに適宜配置したりして、児童が進んで読めるように工夫した。今後も様々な本に親しめるように教師から声を掛けていく。

A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。
【数値指標】
 全体アンケートの「平日の授業後や休日などに積極的に運動している」
 ⇒全体の肯定的回答 80%以上

- ① 運動や健康にめあてをもって取り組めるよう、各種検定表(長期休みには運動実践集)を作成したり、縄跳び・逆上がり・水泳等で補助具等を活用させたりして意欲や技能の向上を図る。
- ② 体育委員会による長なわ大会・ドッジボール大会など児童による運動競技大会を計画し実施する。

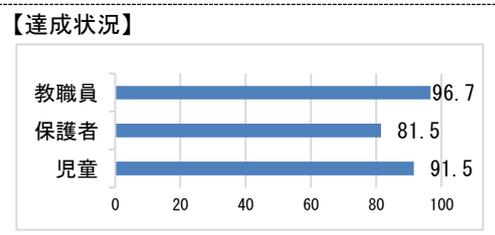


教職員・児童の肯定回答は、90%を超え指標を大きく上回っている。一方で、保護者や地域住民の肯定回答は約70%で指標を大きく下回った。

【次年度の方針】
 各種検定表を作成したり、縄跳び・逆上がり・水泳等で補助具等を活用させたりして意欲や技能の向上を図る。また、業間や昼休みを利用し、児童が運動できるような機会を設ける。

A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。
【数値指標】
 全体アンケートの「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」
 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上

- ① 各学級での実態に応じた食育指導、及び給食だより・食育便りなどを通して、児童が好き嫌いを少なくする努力をするよう、家庭と連携を図る。
- ② 「何でも食べよう大作戦」や、食生活に関するアンケートを実施し、結果を保護者に知らせ、家庭での協力を求める。
- ③ 地域学校園内で、同一の日に「お弁当の日」を実施し、9年間を通じた食育ファイルに記録する。



教職員・児童の肯定回答は90%を超え指標を大きく上回っている。保護者の肯定回答も指標を上回った。

【次年度の方針】
 各学級に配付されている給食カレンダーや、給食委員による給食時の校内放送で、栄養のバランスの大切さの啓発を引き続き図っていく。嫌いなものでも、一口は食べようという雰囲気が出てきたので、これを継続していく。

B3 自己の体の健康に関心をもち、安全な生活をしようとする。

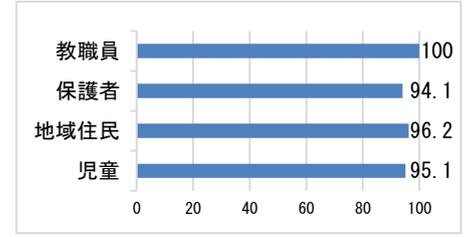
【数値目標】

児童アンケートの「基本的な生活習慣を身につけ、健康的な生活をしようとしている。」

⇒教職員・保護者・児童の肯定的回答 80%以上

- ① 給食時や清掃時の身支度指導、歯みがきや保健委員会の衛生検査など、学校生活の中の様々な保健指導を通して、基本的な生活習慣を身につけ、衛生的・健康的な生活ができるよう指導する。

【達成状況】



教職員・保護者・地域住民・児童の肯定回答は全て 90%を超え指標を大きく上回っている。

【次年度の方針】

学校の実態に応じた保健指導をしたり、保健だよりを配付したりする。また、保健室前廊下の季節に合った掲示で、健康への意識を高める。

給食時や清掃時の身支度や歯磨き指導、保健委員会の児童による衛生検査や集会活動など啓発活動を今後も継続して取り組んでいく。

学
習
等

A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。

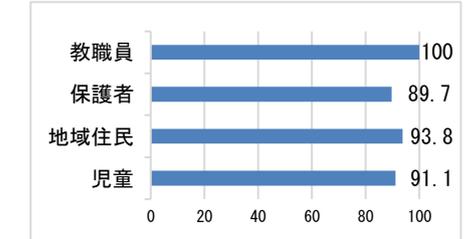
【数値指標】

全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合いわかりやすく発表するなど積極的に学習している」

⇒全体の肯定的回答 80%以上

- ① 基本的な学習習慣を定着させるために、授業において学習のめあてを設定し、学習形態の工夫に取り組む。また、話し合いや発表の仕方を指導し定着に努める。
- ② 特別活動の話し合い活動の実践を他の教科等にも生かして、主体的に話し合い活動を実践する力の育成を図る。

【達成状況】



教職員・地域住民・児童の肯定回答は、90%を超え指標を大きく上回っている。

【次年度の方針】

進んで学習に取り組む児童の育成のため、児童に何を学ばせたいのか、教師が学習のねらいを明確にもち、授業内容の工夫を行っていく。自分の考えをしっかりとって授業に取り組ませるようにする。

A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。

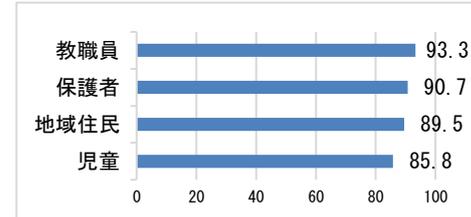
【数値指標】

全体アンケートの「授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」

⇒全体の肯定的回答 80%以上

- ① 朝のスキルタイムにT・Tを取り入れて全校体制で実施し、漢字や基礎的な言語事項や計算練習を繰り返し学習したり、個に応じた学習をしたりする機会を確保する。
- ② 先生の話や友達の意見をよく聞き、自分の考えをはっきりと持ったり話したりすることができるよう、「基本的な学習態度」を年度当初に共通認識し、指導を徹底する。「みどりの学びスタートパック」を活用する。

【達成状況】

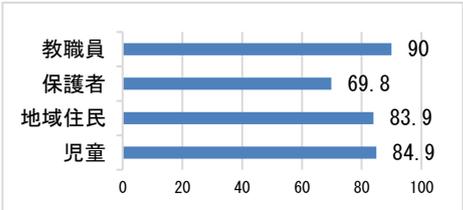
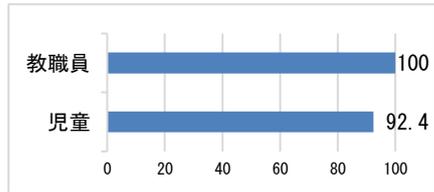
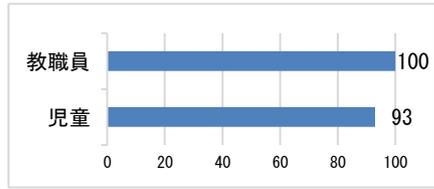


教職員・保護者の肯定回答は、90%を超え指標を大きく上回っている。

【次年度の方針】

児童が自信をもって学習に取り組めるように、朝のスキルタイム等を活用し、学年・学級の実態に応じて、基礎的・基本的な学力の定着を図っていく。

今後も「みどりの学びスタートパック」を活用し、学習規律の確立を図っていく。

<p>A 19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 ⇒保護者・児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 各団体との連携の強化による地域行事等の情報収集を行う。</p> <p>② HPや地域協議会だより等を活用した情報を積極的に発信する。</p> <p>③ 子ども会育成会との連携を強化し、行事の際の学校施設・備品等の積極的な提供に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>90</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>69.8</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>83.9</td></tr> <tr><td>児童</td><td>84.9</td></tr> </table> <p>B 教職員・地域住民・児童の肯定回答は、指標を上回っているが、保護者の肯定回答は約 10ポイント下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 児童は子ども会育成会や地域の行事（ふるさとまつり等）に積極的に参加しようとしている。今後も、子ども会育成会や地域協議会等と連絡を取り合い、地域と関わる機会を確認して児童に伝えていく。</p>	教職員	90	保護者	69.8	地域住民	83.9	児童	84.9
教職員	90									
保護者	69.8									
地域住民	83.9									
児童	84.9									
<p>B 4 児童が学び方を身に付け、生き生きと学習に取り組めるよう授業を工夫し確かな学びを培っている。</p> <p>【数値目標】 児童アンケートの「授業にいろいろな工夫があって楽しい。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 教職員全員が授業を公開し、研究会を行うことで、授業力向上に努める。</p> <p>② 児童の変容を見取る視点での授業参観を実施し、児童や教職員の振り返りを効果的に活用しながら、一人一人が主体的に思考・判断し、表現する力をつけるため、「学び合う」活動を取り入れた授業研究に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>児童</td><td>92.4</td></tr> </table> <p>B 教職員・児童の肯定回答は、90%を超え指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、授業研究会や学年会を通して、児童が主体的に学ぶ授業を推進していく。学年や個人で教材研究の時間を確保し、教員が創意工夫した授業に取り組めるようにする。</p>	教職員	100	児童	92.4				
教職員	100									
児童	92.4									
<p>本校の特色・課題等</p> <p>B 5 豊かな人間関係力を育てる場を工夫し、社会性の育成に努めている。</p> <p>【数値目標】 児童アンケートの「縦割り活動で、他の学年の友達と協力して進んで活動している。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 特別活動の研究を生かし、児童会活動や縦割り班活動がより児童の主体的な活動となるよう工夫する。</p> <p>② 委員会活動や学級活動において子どもたちによる自治的な活動を実践する。子どもたちの良さを生かしてみんなに認められ、自己肯定感を感じられる場を意図的に設定する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>児童</td><td>93</td></tr> </table> <p>B 教職員・児童の肯定回答は、90%を超え指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、委員会活動や学級活動において自治的な活動ができるように、支援していく。また、みどりっ子集会などの縦割り班の行事を通して、他の学年の友達と協力して活動していける場を確保していく。</p>	教職員	100	児童	93				
教職員	100									
児童	93									

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 学校運営の状況

- ・ 学校運営に関する質問13項目中、10項目で数値指標を上回る。その中でも、すべての対象において、肯定的回答割合が90%を超える項目は、次の6つである。
「活気がある学校」「教育課程の適切な実施」「情報の積極的発信」「家庭・地域・企業等との連携」
「学校スタッフとのコミュニケーション」「危機管理対策」
教職員が、教育的愛情をもち、熱心に指導するとともに、学校支援ボランティアを拡充し、グリーンボランティアの新設、登下校の安全確保の強化など、地域の教育力を生かした取組の成果と考える。
- ・ 「いじめ対策」について、保護者の肯定的回答割合が、数値指標を下回るとともに、児童の肯定的回答割合と比べると、18.4ポイントの差がある。いじめゼロ強調月間において、集会を開き、いじめゼロスローガンを発表したり、掲示したりして、児童のいじめ根絶への意識は高まった。保護者について、いじめゼロスローガン作成へ協力を求めたり、月間の取組を学校だよりでお知らせしたりしたが、数値指標には至っていない。
- 「小中一貫教育」について、児童の肯定的回答割合が、数値指標を下回る。中学校教員による乗り入れ授業、中学生の参加を得た「あいさつ運動」など、全校児童へ周知する必要がある。

2 教育活動の状況

(1) 生活

- ・ 「あいさつ」「読書の習慣」は、数値指標を上回り、「正しい言葉づかい」は、保護者の肯定的回答割合が、数値指標を下回る。
気持ちのよいあいさつの定着、全校読書や読書週間の設定など、日常的な学校での指導とともに、魅力協において、あいさつ運動強化週間に参加したり、読み聞かせボランティアを確保したりした成果と考える。
- ・ 「正しい言葉づかい」について、保護者と教職員の肯定的回答割合を比べると、16.7ポイントの差がある。学校での言葉づかいを、家庭においても定着できるようにしたり、保護者会において、言葉づかいを話題に意見交換するなどして、意識を共有したりする必要がある。

(2) 健康・体力

- ・ 「栄養のバランス」「健康的な生活」は、数値指標を上回り、「進んで運動する習慣」は、保護者、地域住民の肯定的回答割合が、数値指標を下回る。
学級活動や給食の時間での指導、給食委員会からの啓発など、食育の推進により、好き嫌いなく食べる態度が向上した。また、歯磨きなどの健康面、うがい・手洗いなどの衛生面など、保健指導の充実により、健康的な生活への意識が高まった。
- ・ 「進んで運動する習慣」について、保護者、地域住民と児童の肯定的回答割合を比べると、20ポイント以上の差がある。球技や縄跳びなど、業間や昼休みにおけるイベントを広く発信したり、保護者会や学校保健食育委員会において情報交換したりするなど、児童の運動への参加状況を共有する必要がある。

(3) 学習

- ・ 「進んで学習」「落ち着いた学習」「授業の工夫」は、数値指標を上回り、「地域でのボランティア参加」は、保護者の肯定的回答割合が、数値指標を下回る。
学習規律の確立、ねらいの明確化、基礎・基本の定着など、教職員の共通理解のもと、実践を進めたり、学び合いを通して、思考力、判断力、表現力を高めたりする取組の成果と考える。
- 「地域でのボランティア参加」について、保護者と地域住民の肯定的回答割合を比べると、14.1ポイントの差がある。この背景にある要因をつかみ、学校として家庭、地域にできることを検討する必要がある。

3 本校の特色・課題等

- 「社会性の育成」は、数値指標を上回る。学級や学年はもとより、異学年交流などの多様なふれ合いを通して、あいさつやマナー、思いやりなどが育ってきたことが分かる。また、お年寄りとの交流会や感謝の会など、地域の方とふれ合う本校独自の行事においても、感謝や地域貢献の気持ちを育てていく。

6 学校関係者評価

1 全般的事項

- ・ 数値指標に基づくとともに、市や昨年度の数値との比較から達成状況を検証するなど、客観性のある評価をしている。
- ・ 「次年度の方針」について、数値の背景にある学校の取組や児童の実態を踏まえて策定しており、適切で妥当である。
- ・ 昨年度と比べると、肯定的回答割合は増加傾向にあり、保護者において、その傾向が顕著であることから、学校の取組が、家庭に理解されているのではないかと。

2 項目別事項

- ・ 「進んであいさつをしている」
あいさつ運動強化週間において、魅力協と連携し、地域でのポスター掲示や立哨による声かけ、あいさつ標語作成など、家庭・地域と一体となった成果が表れてきており、引き続き、連携を深めたい。
- ・ 「進んで学習に取り組んでいる」
家庭科のミシン、体育の水泳など、授業における技能面での支援が効果を上げている。引き続き、学習支援ボランティアの参加を得て、学習意欲を高めてほしい。
- ・ 「小学校と中学校の連携した取組」
中学校教員による乗り入れ授業や6年生の中学校訪問などの取組を行っているものの、児童や保護者、地域住民には見えづらいところがあり、通信を活用するなどして、広く発信してはどうか。
- ・ 「不登校児童対策」
項目にはないが、複数の不登校児童がいると聞いている。学校からの働きかけとともに、地域の関係団体と情報を共有したり、対策を検討したりすることで、改善を図ってはどうか。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 教育目標を具現化するため、学校経営理念のさらなる浸透を図り、教職員が協力体制を確立し、組織力を高めながら、教育活動を工夫・改善し、明るく活気のある学校づくりを進める。
- 地域とともにある学校づくりに向け、地域の教育力を生かした学校支援ボランティアを拡充するなど、学校を、児童、地域住民がふれ合い、共に育つ場としていく。

【学習指導】

- ・ 「学び合い、共に育つ」の研究主題を継続し、学習規律を確立した上で、自分の意見を持ち、友達と意見を交換し、考えを深めたり、新たなことに気付いたりする、協働的な学びへの研究を深める。
- 地域学校園において、コミュニケーション能力を高めるため、小中学校間における指導方法などの円滑な接続を図るとともに、中学校から小学校への乗り入れ授業の趣旨を焦点化するなどして、一貫した指導ができるようにする。

【児童生徒指導】

- 規範意識や思いやりを育てるため、物的、人的、言語的な環境を整え、よい行いを認め伸ばす指導を行ったり、異学年や地域住民との交流、動植物とのふれ合いの場を確保したりするなど、全校体制で共通実践する。
- ・ いじめのない学校づくりに向け、一人一人に応じた役割を与えるなどして自己存在感を高め、互いに認め合う集団をつくり、保護者に対しては、未然防止に向けた取組を説明したり、児童主体の集会の様子を発信したりするとともに、いじめゼロに保護者が関わる部分を増やすなど、参画意識を高めるようにする。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 進んで運動する習慣を形成するため、業間や昼休みに、友達と体を動かすことを楽しみながら体力づくりができる交流会などを企画したり、健康・安全に生活する意識を高めるため、養護教諭・栄養士と学級担任が連携した取組を推進したりする。
- 地域学校園における体力面、食育面の課題解決に向け、持久力を高める取組を共有し、実態に応じた指導を工夫したり、「お弁当の日」の共通する取組や食物アレルギーへの適切な対応を検討したりして、小中連携の取組を進める。